

環境白書

平成12年度版

兵庫県

「環境適合型社会」の形成をめざして

地球温暖化やオゾン層の破壊、有害化学物質による汚染など、地球規模で進む環境問題が深刻さを増し、いまや人類の生存基盤さえをも揺るがす重大な課題となっています。その多くは、私たちの日常生活や産業活動が、自然の浄化機能を超えて地球に負担をかけることによって引き起こされているものです。

いよいよ“環境の世紀”といわれる21世紀。いまこそ、県民・事業者・行政といった社会の構成員すべてが、快適さや便利さを優先してきたライフスタイルや社会経済システムを真摯に見つめ直し、自然との共生を図りながら、持続的な発展ができる『環境適合型社会』の実現に英知と総力を結集していかなければなりません。

こうした観点から、兵庫県では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を本庁舎で認証取得するなど、県自ら事業者として環境負荷の低減に努めるとともに、県民みんなの『参画』と『協働』を基本とした総合的な環境対策を意欲的に推進してまいりました。

幸い、“人と自然のコミュニケーション”をテーマとした淡路花博「ジャパンフローラ2000」の開催を契機に、自分たちでできることを実践しながら、よりよい環境を創造していこうとする取り組みの輪が大きく広がりつつあることは、大変心強く嬉しいかぎりです。

これからも、私たちが暮らすふるさと兵庫の環境の保全と創造はもとより、地球温暖化の防止や閉鎖性海域の環境保全など地球規模で進む環境問題の解決もしっかりと視座に据えて、さらに充実した諸施策を展開してまいる決意ですので、皆様方のより一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

地球規模で考えて、行動は足元の地域から——共に力をあわせて、人と自然と社会が豊かに調和し共生する“環境の世紀”を切り拓いてまいりましょう。

平成12年12月

兵庫県知事 貝原俊氏

目次

第1部 兵庫県環境問題の動向と取り組みの概要

第1章 兵庫県の環境問題と環境政策の方向性	3
第1節 兵庫県の環境問題	3
第1 環境問題の動向	3
第2 新たな環境問題の顕在化	3
第2節 環境政策の方向性	4
第1 国等の対応	4
第2 兵庫県の環境政策の新たな方向	4
第2章 兵庫県における主要な取り組みの概要	5
第1節 社会の構成員すべての参画と協働の推進	5
第1 協力・連携による取り組みの推進	5
第2 各主体の自主的な取り組みの推進	5
第3 環境学習・教育の推進	5
第4 情報の収集、提供と公開	5
第5 経済的手法の活用	6
第6 環境影響評価の推進	6
第2節 循環を基調とする地域環境への負荷の低減	6
第1 大気環境の保全	6
第2 水環境及び地盤環境の保全	6
第3 廃棄物の減量化と適正処理の推進	7
第3節 豊かで多様な自然環境の保全	7
第1 貴重性の高い自然の保全	7
第2 野生生物との共存	7
第4節 ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	7
第1 豊かで多様な美しい環境の創造	7
第2 自然とのふれあいの推進	7
第5節 地域からの地球環境保全の推進	7
第1 地球温暖化防止対策の推進	8
第2 オゾン層保護対策の推進	8
第3 国際協力等の推進	8

第2部 環境の状況

第1章 概況	11
第1節 地勢	11
第2節 人口	11
第3節 土地利用	11
第4節 社会・経済活動	11
第1 産業活動	11
第2 水・エネルギー使用	11
第3 交通	11
第2章 生活環境	12
第1節 大気汚染（一般環境大気）	12
第1 概説	12
第2 窒素酸化物（二酸化窒素）	12
第3 光化学オキシダント	12
第4 浮遊粒子状物質	14
第5 硫黄酸化物	14
第6 金属物質等有害物質	15
第7 有害大気汚染物質	15
第8 アスベスト	19
第2節 水質汚濁	20
第1 概説	20
第2 河川・湖沼	20
第3 海域	32
第4 海水浴場調査	34
第5 底質調査	34
第6 地盤環境（地下水・土壌汚染）	34
第7 ゴルフ場農薬	41
第3節 騒音	42
第4節 振動	42
第5節 悪臭	42
第6節 自動車公害	43
第1 概説	43
第2 大気汚染	43
第3 騒音・振動等	46
第7節 航空機公害	49

第8節	新幹線公害	52
第9節	廃棄物	52
第1節	概説	52
第2節	一般廃棄物	52
第3節	産業廃棄物	52
第3章	自然環境	54
第1節	地形と気象	54
第2節	植生	54
第3節	野生動物	55
第1節	鳥獣	55
第2節	その他の動物	55
第4節	自然公園	55
第4章	ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	58
第1節	緑・水辺・公園	58
第2節	景観・環境美化	58
第3節	自然とのふれあいの推進	58
第5章	地球環境	59
第1節	地球の温暖化	59
第2節	オゾン層の破壊	62
第3節	酸性雨	63
第4節	その他の地球環境	68
第1節	有害廃棄物の越境移動	68
第2節	海洋汚染	68
第3節	野生生物種の減少	69
第4節	熱帯林の減少	69
第5節	砂漠化	69
第6節	開発途上国での公害問題	70
第6章	ダイオキシン類に係る環境調査の状況	71

第3部 環境の保全と創造に関する施策の実施状況等

第1章 環境の保全と創造の総合的・計画的推進	75
第1節 環境の保全と創造に関する条例の施行	75
第2節 環境基本計画の策定と推進	75
第3節 公害防止計画の推進	77
第2章 すべての行動主体の参画と協働の推進	78
第1節 協力・連携による取り組みの推進	78
第1 さわやかな環境づくり地域行動計画の推進	78
第2 団体などによる環境保全活動の取り組み	79
第3 ㈱ひょうご環境創造協会による取り組み	83
第2節 各主体の自発的な取り組みの推進	83
第3節 環境学習・環境教育の推進等	86
第4節 情報の収集・提供と公開	86
第5節 経済的手法の活用（地球環境保全資金融資制度）	86
第6節 環境影響評価の推進	88
第3章 循環を基調とする地域環境への負荷の低減	91
第1節 大気環境の保全	91
第1 概 説	91
第2 窒素酸化物対策	92
第3 光化学オキシダント対策	92
第4 浮遊粒子状物質対策	93
第5 硫黄酸化物対策	94
第6 金属物質等有害物質対策	94
第7 有害大気汚染物質対策	94
第8 アスベスト対策	94
第9 今後の課題	94
第2節 水環境の保全	95
第1 概 説	95
第2 工場・事業場排水対策	95
第3 生活排水対策	96
第4 富栄養化・赤潮防止対策	101
第5 瀬戸内海浄化対策	102
第6 その他の汚染源対策	103
第7 地盤環境の保全（地下水・土壌汚染対策）	103
第8 ゴルフ場農薬による水質汚濁対策	105

第3節	騒音対策	105
第4節	振動対策	105
第5節	悪臭対策	106
第6節	交通公害対策	106
第1	自動車公害対策	106
第2	航空機公害対策	115
第3	新幹線鉄道公害対策	117
第4	今後の課題	117
第7節	廃棄物の資源化・減量化と適正処理	118
第1	概説	118
第2	一般廃棄物対策	119
第3	産業廃棄物対策	121
第4	不適正処理防止対策	125
第5	廃棄物の広域処理	125
第6	環境クリエイトセンター事業の推進	126
第4章	自然環境の保全	127
第1節	概説	127
第2節	貴重性の高い自然の保全	127
第3節	野生生物との共存	128
第4節	自然公園の保全	129
第5節	自然環境保全活動の実践と学習の推進	129
第6節	その他の自然環境保全対策	130
第7節	今後の課題	130
第5章	ゆとりと潤いのある美しい環境の創造	131
第1節	概説	131
第2節	ゆとりのある空間の確保	131
第3節	豊かで多様な緑の創出	131
第4節	自然豊かな親しみやすい水辺空間の創造	133
第5節	良好な景観の形成	133
第6節	自然とのふれあいの推進	133
第7節	特色ある地域環境の創造	134

第6章 地域からの地球環境保全	136
第1節 地球温暖化防止	136
第2節 オゾン層の保護	136
第3節 酸性雨対策	141
第4節 その他の地球環境問題への取り組みの推進	141
第5節 国際協力等の推進	141
第7章 共通的・基盤的な施策の推進	143
第1節 調査・研究	143
第1 県立公害研究所	143
第2 県立衛生研究所	146
第3 県立工業技術センター	146
第4 県立中央農業技術センター	147
第5 県立水産試験場	147
第6 県立森林・林業技術センター	147
第7 県立人と自然の博物館	147
第2節 監視・観測等	148
第3節 環境保健対策、公害紛争処理	150
第1 公害審査会	150
第2 公害苦情相談	150
第3 公害健康被害の救済対策	151
第4 環境事犯の取り締まり	151
第8章 有害化学物質対策等の推進	152
第1節 環境汚染物質排出・移動登録（P R T R）制度の推進	152
第2節 ダイオキシン類削減対策	152
第1 発生源対策	152
第2 環境調査	152
第3節 外因性内分泌攪乱化学物質対策	157